

# 日本演出者協会プロデュース 劇作家VS演出者

# 木村さん と 鈴木さん



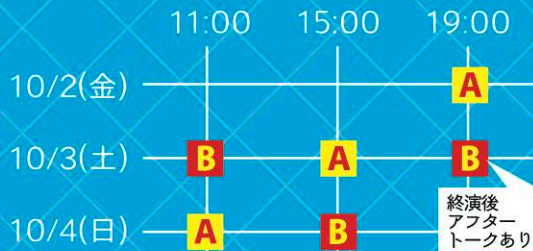
「同世代間だけで芝居を創ってる人が多いな」と個人的な思いがあり、「世代の違う劇作家と演出者が組むことで刺激を受け合う事が出来るのではないだろうか。」「なら以前からやりたかった、ジム・ジャームッシュ監督の『コーヒー&シガレット』みたいなもの、「テーマでなくモチーフで創るオムニバス」、「木村さんと鈴木さん」「これは、良いアイデアだ!」じゃじゃ〜ん!「劇作家VS演出者」乞うご期待あれ!

劇団B級遊撃隊 神谷尚吾

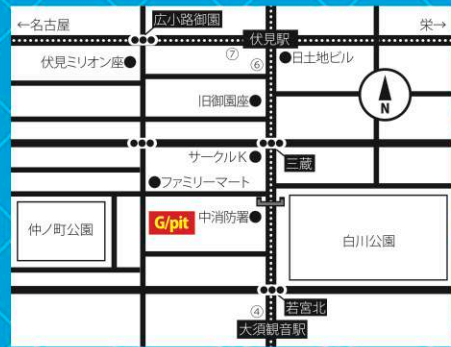
日時 | 2015年 10月 2日(金) ~ 4日(日)

会場 | G/pit

名古屋市中区栄一丁目23-30 中京ビル1F  
地下鉄 東山線・鶴舞線「伏見駅」⑥番出口徒歩5分  
地下鉄 鶴舞線「大須観音駅」③番出口徒歩10分



※開演30分前より受付・開場致します。  
※1プログラムにつき4作品(1作品20分程度)を上演いたします。  
途中15分休憩を挟み、1プログラム約105分を予定しております。  
※10/3(土)19:00~の回は  
Aプログラム・Bプログラム共通のアフタートークを行います。



料金 | ※学生は当日券のみ販売(学生証を呈示ください)

1プログラム	一般 前売 2500円	当日 2800円
	学生	当日 2000円
ABプログラム両方	一般 前売 4000円	
	学生	当日 3000円

## 8作品すべて、木村さんと鈴木さん。

※各プログラムの上演順番は未定です。詳しくはお問い合わせ下さい。  
お問い合わせ先 | TEL 090-4195-0269 (齋藤)

### Aプログラム

劇作 ニノモノコスター (オレンヂスタ) 演出 丸知亜矢 (ちあとら〜る)



劇作家・演出家・宣伝美術家。  
15歳まで「豊田シティバレエ団」にてクラシックバレエを習い2009年オレンヂスタ旗揚げ。犯罪・労働等マクロな社会問題を家族・友情等ミクロな視点から描き、歌・ダンス・大喜利なども交えたミクスカルチャーエンターテインメントを得意とする。  
代表作は「AAF リージョナル・シアター2013 Bungaku コンプレックス」演出、あいちトリエンナーレ2013 祝祭ウィーク事業「サ××ド・オブ・ミュージック」劇作、アリスインプロジェクト「アリスインデッドリースクールオールドタイプ NAGDYA」演出など。



ちあとら〜る/演出家・俳優・学術博士 (P.H.D.)。  
演劇の本場ロシア・モスクワへ俳優の勉強をするため演劇留学したが、大学教授の勧めで演出家となる。帰国後、演出家、俳優として活動するほか、スタニスラフスキーシステムを使ったワークショップ、日露文化交流のため通訳、翻訳、コーディネーターも手掛けるマルチタレント。  
「ちあとら〜る (Teatran)」はロシア語で「芝居好き」の意味。お芝居を見るのが好きな人がたくさん増えるような舞台を作るため奮闘しています。

劇作 長谷川公次郎 (虚構オメガ) 演出 岡田一彦 (劇座)



劇作家・演出家。  
「虚構オメガ」主宰。  
東京生まれの名古屋育ち。  
立教野村短期大学卒。  
30歳から制作として演劇に関わり始め、その傍らに書いた短編小説「回転裏眼鏡」が劇団員にノミネートされたことをきっかけに、2009年4月、虚構オメガを立ち上げる。これまでに様々な劇団員の名を連ねるも、最終候補はかなりのでいまも無名。理不尽な会話劇ばかり書くのが特徴。  
他劇団への戯曲提供や外部演出、演劇指導、宣伝美術、サイト作成等、多方面で活躍中。



1987年 名古屋産大卒業。  
劇団研究生を経て現在劇団員。  
劇座本公演オメガ公演のほか外部の劇団にも客演をするなど多数の作品に出演しているほか、演出として興行に携わるなど幅広く活動をしている。  
現在、日本演出者協会東海ブロック会員。

劇作 台越竜太郎 (フリー) 演出 森秋音 (ヨテラシイチ)



劇作家・俳優。  
平成生まれ徳島育ち。  
社会人演劇で舞台を経験し三河地方等で活動。恩師の言葉をきっかけに2012年より劇作活動を行う。  
細々と執筆し、戯曲提供、企画参加等を経る。喜劇より不条理な色香が濃い作品が多いため、まったく芯のない奴と思われている。  
その通りだとも思う。  
あんまり気にしてはいない。  
2014年より俳優活動も再開。  
「星の女子さん」所属。



俳優・演出。  
ヨテラシイチ主宰。  
専門学校にて俳優として演劇を学び、卒業後劇団活動を経て、ユニット「ヨテラシイチ」結成。男女の会話劇を主に、コンテンポラリー要素も入れた、繊細な作品をつくる。文学、古典作品も扱う。ダンス、生演劇と詩のコラボなど幅広く活動。  
代表作 宮沢賢治「シシガシラとシシガシラ」『よだかの屋』 中原中也『忘れられた悲しみ』、『ジョン・パトリック・シヤンリイ』『ダニーと紺碧の海』

劇作 みなみ津姉 (つねプロデュース) 演出 菊本健郎 (NEO企画)



劇作家・演出家・大阪府出身。  
11歳より大衆演劇を習い、15歳より名古屋で舞台俳優活動始める。  
2008年に「つねプロデュース」を立ち上げ、演劇プロデュースやイベントの企画・運営など始める。  
2010年より劇作に重心をおき、毎年夏に演劇公演を行う。ジャンルはコメディ。  
難しくない演劇・娯楽としての演劇を日々追い求めている。



学生時代からアルバイトを通じて舞台の面白さを知り、プロのスタッフとして各種ステージの構成演出・音響・舞台監督などの裏方業務に携わる。30歳を過ぎてから演劇の世界にひまこまれ、舞台劇の脚本・演出を仕事を中心として今日に至る。総合劇団俳優座創立に参加。ミュージカルをはじめ多くの作品に関わるが、事情により退団。様々な旅行経験を経て、演劇工房NEO企画を主宰するが、現在は芝居作りの現場に、やや距離を置いた日常を送る。そんな中で今回は、これまであまり関わったことのない、若い世代の皆さんの新鮮な感覚を学びたい、と何故かふらふらと思いつき、企画に参加した。

### Bプログラム

劇作 舟橋「委員長」慶子 (シアターUNA I) 演出 川村ミチル (劇団そらのゆめ)



1982年 名古屋生まれ。  
民間企業に勤める傍ら、2011年、ソロユニット「シアターUNA (ウナ)」を旗揚げ。以降、作・演出を担当。  
「美しさ」をテーマとした「私かみたいメロドラマ」をつくり上げるのが目標。  
後者としての活動も続けており、2015年3月には、第2回ナガoya俳優座にて「恋魚家 三女(うなやみとじ)」として芝居にも挑戦。書く/演じる/観る、どれも大好きです。  
「委員長」は大学時代のあだ名。



俳優・演出家、劇団そらのゆめ主宰。  
劇団うらりんに退団後、独立。  
俳優として全国の公演活動を行うほか、地域コミュニティ対象の演劇講座、表現教育授業、保育士・教員へ向けての現職教育、学芸会指導の講座も多く務める。脚本や演出作品には児童青少年演劇の他、「ほたる館」(公共ホールとの市民参加型共同事業)、「夏想い(山県市オリシタル演劇)」や「まがり(同)」「すきとおった魚と光と(若狭演劇アカデミー)」などの劇場等、市民劇制作も多数。イベント企画、演出、司会等も手掛ける。2006年度全国児童青少年演劇協議会奨励賞受賞。

劇作 久川徳明 (劇団翔航群) 演出 金子康雄 (劇座)



劇団翔航群主宰。  
1990年、劇団翔航群旗揚げ、代表となる。以降、殆どの作品を構成、演出、出演。  
1995年より、座付き作家としても活動開始。プロジェクト・ナガoya『毒歌』にて全国巡演。プロジェクト・ナガoyaプロデュース公演、記念公演、リーディング公演等で、名古屋、東京、京都、他でも活動。  
テレビ、ラジオ、映画にも出演し、現在、専門学校で非常勤講師を始め、シニア劇団の指導、専門学校、高校、事業団等でワークショップ講師を務める。



1963年名古屋生まれ。  
中学時代よりフォークソングを歌い始め、色々な楽器や音響器材を扱い始める。大学卒業の年より演劇の世界に入り、現在に至る。  
『中学生日記』教師役レギュラーをはじめ、TV・ラジオ・舞台等多数出演歴あり。  
また同時に裏方として演劇・ダンス・音楽・イベント等に舞台監督・大道具・照明・音響・映像等様々な形で関わっている。  
現在は劇座・日本演出者協会・名古屋放送芸術家協会所属

劇作 鏡味富美子 (フリー) 演出 かしましげみつ (孤独部)



1968年生まれ。  
愛知県岡崎市出身。  
1998年、麻剣けい子氏に戯曲の書き方を教わる。  
名古屋文化振興賞、第19・20・21回最終選考にノミネート。第19回作品『ロスタイム』はミュージカルや短編として県内外で多くの劇団に上演される。その再演回数、2010年~2011年伊丹流志流15周年。  
名古屋短期大学非常勤講師。  
名古屋を中心に幅広い団体に台本を書き下ろして活動する劇作家。



1988年2月生まれ。  
愛知県刈谷市出身。名古屋在住。  
2009年に「孤独部」を旗揚げ。  
すべての作品の作・演出をつとめる。  
ライブハウスを中心に活動し、2012年より劇場での公演も行っている。2014年7月「AAF リージョナル・シアター2014」へ大阪と愛知 vol.1 - 文楽コネクション」演出家へ選出。  
今どきの若者の、ゆるやかならだとしてばを用いて、現代人の実感をやわらかに(時々鋭く)描きたす。

劇作 長谷川彩 (劇団さよなら) 演出 神谷尚吾 (劇団B級遊撃隊)



「劇団さよなら」作・演出。  
中学までやっていった吹奏楽部が高校になく、帰らなかったまま演劇部の前を通りかかったところドアが開いていたため入部、劇作を始める。  
ある劇作家の、役者が大成する困難さを認める際に言った「劇作家は、まあ、書いてればそのうちなれます」という言葉を鵜呑みにしたまま、現在に至る。人間の弱さをおもしろく感じる作品を模索する。  
第二回宇野重吉演劇賞優秀賞受賞。  
第18回劇作家協会新人戯曲賞最終候補。



劇団B級遊撃隊所属  
演出家 俳優  
日本演出者協会会員  
ナガoyaパフォーマンス講師  
2001年よりB級遊撃隊作品の演出を担当。  
生身の人間である役者を最大限に生かす、ライブ感溢れる空気に重点を置いた舞台づくりが特徴。